

★学校の教育目標	○ よく考える子ども ◎ 思いやりのある子ども ○ 体をきたえる子ども ○ 最後までやりぬく子ども	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）		
【目指す児童像】	○ 集団の中で自分がどうあるべきか考え、行動できる児童 ○ 自ら問いをもち、思考・判断・表現を駆使して生かせる児童 ○人との関わりや地域を大切にできる児童	「安心できる学校」プロジェクト 「みんなでつくる、みんなのための学校」プロジェクト コミュニティ・スクールとして、子供を真ん中にして、誰もが安心して自分の力を発揮できる学校を学校と家庭、地域とともにつくることを目指し設定した。
【目指す学校像】	○ 互いに切磋琢磨できる学校 ○ 生き生きと日々の実践に笑顔で励む学校 ○ 地域と共に歩む学校	
【目指す教師像】	○ 一人一人の児童を大切にできる教師 ○ 教職員・保護者・地域が力を合わせ支え合う教師	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	楽しくわかる授業を創造し、主体的対話的に深く学ぶ授業を展開する	○ ねらいを明確にした意図的・計画的な授業を展開する ○ 学習者用端末を効率的に活用し、一人一人の確かな学力の向上を図る	○ 児童の実態に即した教材研究を行い、身に付けさせたい力と学習のゴール地点を明確にした授業を行う ○ 教員の専門性を生かした授業交換・単元交換授業を実施する ○ 学習者用端末やICT機器を授業に積極的に活用し、できるわかる授業を展開する	3	4 考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員が90%以上 3 考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員が80%以上 2 考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員が70%以上 1 考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員が70%未満	4	4 「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が90%以上 3 「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が80%以上 2 「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が70%以上 1 「学習内容が分かり、できるようになった」と答えた児童が70%未満	個々の教員間に指導力等の差があることから、交換授業を実施することは、児童にとって多様な考え方を学ぶよい機会になっている。今後は学校全体で主体的・対話的で深い学びの追究に向けた授業展開の研究をして構造化することが必要ではないか。	考え、議論する内容を目指し、交換授業を学期に5回以上実践した教員は85%であった。学習内容が分かり、できるようになったと答えた児童は91%である。理解したことや習得した技能を生かして思考・判断・表現を行う場面を増やすことが今後の課題である。
	学びを児童主体に移譲し、自らの意思と他者の考えを取り入れ、協働して、より自発的に行動できる力を育む	○ 児童が自主的・主体的に活動できる様々な場を設定し、自ら考え、判断し、表現できる力を身に付けられるようにする	○ 特色ある学校づくりを推進するため、児童がもっている力を発揮し、他者と協力し、学校行事への参画・学校のきまりの改善・なかよし班活動の充実など、自発的に活動できる指導・支援を行う	4	4 児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が90%以上 3 児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が80%以上 2 児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が70%以上 1 児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った教員が70%未満	3	4 「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が90%以上 3 「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が80%以上 2 「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が70%以上 1 「みんなのことを考えて活動することができた」と答えた児童が70%未満	学校は私的な場所ではなく公の場であることを低学年のうちに学ばせることが大切である。一部の児童の意見で授業を進行したり、やらされた思いの残る指導をしたりすることの改善が必要である。他者理解を育てるとともに、個々の得意なことを発揮できるような機会を設けていきたい。	全ての教員が児童が自主的に活動できるような指導支援を計画的に行った。みんなのことを考えて活動することができた児童は88%である。児童が設定する目標の対象が自分自身であることが多いことから、他人や学級・学年・学校全体のことを視野に入れて行動することができるような指導支援が必要である。
みんなの多様な学びとあわせをつくる	自ら課題を設定し、興味関心を高め、解決しようとする力をさらに次への課題に結び付けていく力を育む	○ 自ら問いをもち、思考・判断・表現したことを生かせる指導の工夫を取り入れた授業を展開する	○ 学ぶ意欲を育むため、個に応じた学習課題を設定し、興味関心を高めさせる ○ 一人1台学習者用端末を利活用し、授業内容だけでなく家庭学習においても、課題追究できる場を設定する	3	4 学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が90%以上 3 学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が80%以上 2 学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が70%以上 1 学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員が70%未満	3	4 「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が90%以上 3 「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が80%以上 2 「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が70%以上 1 「学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つ」と答えた児童が70%未満	他者の考えを参考にしながらさらに考えを深めたり広げたりする機会を増やしてほしい。表現する際に相手に分かってもらうための工夫が不足している。能力に応じて一人一人に寄り添った指導をしてほしい。授業で取り扱う課題の他に興味・関心のあることへの探究を奨励し、校内で発表したり掲示したりするなどして成功体験を重ねるとよいのではないか。	学習者用端末やICT機器を週に3回以上活用した授業を実践した教員は85%であった。学習者用端末やICT機器を使った授業は学習に役立つと答えた児童は89%である。機器を使用する機会が増えたが、資料の検索が中心である。他者の考えを参考にしたり、創造したりするツールとして活用できるようにすることが課題である。
	異年齢集団による活動を実施し、互いを思いやる心で協力して活動しようとする意欲、学校の一員としての所属感・連帯感を育てる	○ 高学年を中心に、「何を」「なぜ」「どのようにしたいのか」を問わせながら、企画力・判断力・創造力・表現力を向上させる	○ なかよし班活動を中心に、異学年・異年齢での交流の機会を増やし、充実する。	4	4 なかよし班活動で話し合っ決めて内容を行事に反映させる支援ができた教員が90%以上 3 なかよし班活動で話し合っ決めて内容を行事に反映させる支援ができた教員が80%以上 2 なかよし班活動で話し合っ決めて内容を行事に反映させる支援ができた教員が70%以上 1 なかよし班活動で話し合っ決めて内容を行事に反映させる支援ができた教員が70%未満	4	4 「なかよし班活動は楽しくみんなで活動できた」と答えた児童が90%以上 3 「なかよし班活動は楽しくみんなで活動できた」と答えた児童が80%以上 2 「なかよし班活動は楽しくみんなで活動できた」と答えた児童が70%以上 1 「なかよし班活動は楽しくみんなで活動できた」と答えた児童が70%未満	上学年児童が活躍したことを褒められ達成感をもちたせることができるよう機会を増やすとよい。学校たよりや校長室より、Webページ等で様子を伝えてほしい。一方で、強制感を抱いている児童がいるので、児童に必要な性とメリットを明確にしてほしい。	全ての教員がなかよし班活動で話し合っ決めて内容を行事に反映させる支援ができた。なかよし班活動は楽しくみんなで活動できたと答えた児童は91%であった。上学年の児童が下学年の児童を楽しませよう配慮している姿が見られる。上学年が活躍する場面を増やすことが必要である。
社会と未来に開き、みんなでつくる	集団活動の中で、自分の役割や自分のよさを発揮し、話し合い活動を通して、よりよい人間関係や学校生活を築こうとする態度を育てる	○ 校内研究を通して、話し合う場面を意図的に構成した学びの工夫を取り入れた授業を展開する	○ 児童自らが学びを深めていけるようにするために、特別活動（話し合い活動）を基本に、他教科でも自らの考えを伝え、意見を交わし、まとめたり再考したりする活動を取り入れた授業を展開する	4	4 話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が90%以上 3 話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が80%以上 2 話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が70%以上 1 話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員が70%未満	3	4 「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が90%以上 3 「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が80%以上 2 「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が70%以上 1 「話し合いを通して、他者の意見が役に立った」と答えた児童が70%未満	児童一人一人のよさや違いを認め合い、よりよい学校生活が構築されつつある。授業実践の状況から児童の意見交換が他の授業においても展開されると期待できる。話し合いを通して自分の意見を伝え、相手のことも理解できる児童に育ててほしい。意見をまとめ、発表するためには語彙力が必要である。そのために国語力や読書力を育てることが大切である。	話し合い活動が積極的に行わせる発問を取り入れた授業を実践した教員は95%であった。話し合いを通して他者の意見が役に立ったと答えた児童は83%である。学級活動の研究を通して、自他ともに楽しく活動することについて考えることができるようになってきた。このことを日常化することが必要である。
	保護者、地域、近隣施設や異校種などとの交流を通して、自然や地域を愛する豊かな心、思いやりの心を育てる	○ 他校種と連携し、交流を生かしたインクルージョン教育の推進を図る ○ コミュニティ・スクールとして児童のもつ様々な興味関心を引き出す企画を実施する ○ 学校から情報を発信し、本校の教育活動について理解を促進する	○ 多様性の理解を深めるために、異校種との交流授業や地域を利活用した授業を全ての学年で設定する ○ 教育活動の充実を図るため、学校行事、体力テスト、学習での補助などの活動支援を依頼する ○ 学校の様子を知らせ、教育活動を理解してもらうために、ホームページ、C4th Home & Schoolを活用し、積極的に発信する	4	4 地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が90%以上 3 地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が80%以上 2 地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が70%以上 1 地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員が70%未満	4	4 「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が90%以上 3 「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が80%以上 2 「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が70%以上 1 「地域に関する学習や交流、体験活動が楽しい」と答えた児童が70%未満	地域の人材を生かし、体験活動や交流活動をさらに進めてほしい。各学年で交流学習の目標を明確にし、成果を自分の生活や生き方につなげてほしい。各行事に保護者が参加しやすいように促してほしい。保護者同士が意見交換できる機会を設けてもよいのではないか。今年度は地域との交流が少ないとの声が聞かれた。	地域に関する学習や交流、体験活動を計画通り実施した教員は95%であった。地域に関する学習や交流、体験活動が楽しいと答えた児童は91%であった。地域を生かすように促してほしい。保護者同士の意見交換できる機会を設けてもよいのではないかと。今年度は地域との交流が少ないとの声が聞かれた。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。